

中学生ドライバー

梗概

転校生の飯田直哉（14）は車なしでは生きられない。

学校内でも車生活を送る直哉は、近く行われる体育祭のために100メートル走のタイムを計り、リレーの選手に選ばれる。

順風満帆な学校生活も束の間、直哉はテストのカンニングをしたことから八重樫陽向（14）に目をつけられる。

陽向は学級委員長である一方、伝説のロック歌手尾崎豊のファンで「自由」を求めてタバコをふかす不良生徒だった。

陽向に振り回される直哉は、ある日、寝坊が原因で教師を轢き殺してしまう。

そうした中で迎えた体育祭本番。

警察に取り囲まれ、逮捕を受け入れた直哉へ陽向は「仕組みれた自由を打ち破れ」と助言する。

戸惑う直哉だったが、リレーで他の選手をこぼう抜きする中で、ついに自分の活躍は車のおかげであることに気づく。

仕組みれた自由の意味を知った直哉は大人たちの作ったルールから抜け出し、本当の自由を求めて校舎の外へと駆け抜けてゆく。

《登場人物》

飯田直哉 (14) 中学二年生

八重樫陽向 (14) 中学二年生

佐知子 (40) 直哉の母

北沢 (30) 直哉の担任

今井 (36) 体育教師

加藤 (15) 中学生三年生

男子 1、2

刑事 1、2

社会科教師

数学教師

少年

※全てのシーンを主人公が運転する車に付けられたドライブレコーダーから撮影した映像とする

※よって車内のシーンを始め映像に映らない描写がト書きの一部にあるが、読みやすさの面から便宜的に記載した

○通学路（朝）

飯田直哉（一斗）の運転する車（以下直哉と表記）が走っている。

歩道には登校する中学生たちの姿。

○中学・校門前

直哉、ウインカーを出す。

車内にウインカーの音が響く。

直哉、校門へ入っていく。

○同・校舎前

直哉、やってくる。

昇降口に北沢（30）が立っている。

○同・廊下と階段

直哉、北沢の後についてゆく。

階段に段差をなくすための板が敷かれて
いる。

直哉、ゆっくりと板の上を登っていく。

○同・2年△組教室前

教室のドアが取り外されている。

北沢、教室へ入っていく。

直哉、ウインカーを出す。

直哉、ゆっくりと教室へと入る。

○同・2年△組教室

生徒たち、机に座っている。

直哉、入ってくる。

直哉、席に着くために慎重にバッグする。

北沢と生徒たち、直哉を見ている。

直哉、切り返してもう一度バッグ。

直哉、切り返してまたバッグ。

直哉、どうにか席に着く。

北沢、直哉の前からやってくる。

北沢、ドアをノックする。

直哉、窓を開ける。

北沢「話をするから窓は開けててくれ」

北沢、教壇へ立つ。

北沢「転校生の飯田だ。みんな仲良くするよ
うに」

生徒たち「(頷く)」

北沢「飯田、自己紹介頼む」

直哉「(ぼそり) ……飯田です」

×

×

×

社会科教師、黒板の前で授業している。

直哉、聞いている。

社会科教師「豊臣秀吉が1582年に行った
太閤検地によって作物の収穫量の基準が全国
で統一され、従来の検地では把握できなかつ

た生産高を正確に：」

×

×

×

車内に乃木坂の曲が流れている。

給食を手にした八重樫陽向（ヒロ）、直哉の

正面からやってくる。

陽向、ドアをノックする。

直哉、窓を開ける。

陽向「はい。給食」

陽向、直哉に給食を渡す。

直哉「：どうも」

陽向「乃木坂好きなんだ」

直哉「え、あっ」

直哉、慌てて曲をとめる。

陽向「その曲いいよね。私も好き」

直哉「：」

陽向「あ。私八重樫陽向。このクラスの学級委員長をしてて、席は飯田君の後ろ。よろしく」

直哉「(ぼそり) …よろしく」

陽向「早くクラスに馴染めるといいね」

北沢、やってくる。

北沢「飯田。転校してきたばかりであれなんだけど、来週体育祭がある。昼休みに100メートル走のタイムを計りたい」

○同・校庭

直哉、スタート地点にいる。

ゴール前で陽向がストップウォッチをもつて立っている。

北沢、かけ声をかける。

北沢「位置について、よいい、ドン！」

直哉、フルスロットルで疾走。

あっという間にゴール。

○同・教室

生徒たち、小テストをしている。

数学教師、見回っている。

数学教師「はいそこまで」

生徒たち、手をとめる。

数学教師「後ろの席の人、集めて」

×

×

×

放課後。

帰り支度をする生徒たち。

陽向、直哉の前からやってくる。

陽向、ノックする。

直哉、窓をあける。

陽向「（笑顔で）小テストどうだった？」

直哉「…まあ」

陽向「中、入ってもいい？」

直哉「…あ、うん」

直哉、ドアのロックを解除。

陽向、ドアを開けて車内に入る。

陽向「涼しい」

直哉「…エアコンつけてるから」

陽向「…ね。なんかいうことない？」

直哉「え？」

陽向「(冷めた声で)なんか私にいうことない?」

直哉「…え?」

陽向「みてたでしょ。バックミラーで」

直哉「(口ごもる)…いや、え?」

陽向「私の答案用紙」

直哉「いや、みてない」

○教室(回想)

直哉、小テストをしている。

直哉「(バックミラー越しに陽向と目があって)やべ。目があつた…」

○(戻って)教室

陽向「目があつて逸らしたじゃん」

直哉「…いや、でも、みてない」

陽向「先生にいうよ。飯田君にカンニングさ
れたって」

直哉「…みてないから」

陽向、ドアを開けて教室に出る。

陽向、北沢のもとへいく。

陽向「先生！ 飯田君が…」

直哉、クラクションを鳴らす。

○同・廊下

直哉、徐行している。

助手席に陽向が乗っている。

直哉の正面で、男子「、ふざけて男子

の後ろからスライディングタックルをする。

男子「、尻餅をつく。

男子「（笑う）」

男子「（男子「へ）おい！」

男子「と、じゃれ合う。

陽向「…男子って愚かな生き物だね」

直哉「…」

陽向「今から行きたい場所があるの」

○車道（夕）

直哉、走っている。

陽向「なんか曲かけて」

直哉「…」

直哉、カーオーディオをいじる。

乃木坂の曲が流れる。

陽向「(きっぱり) 乃木坂以外で」

直哉「え」

陽向「群れてる奴ら、嫌いだから」

直哉「…いや、乃木坂しかない」

陽向「尾崎は？」

直哉「尾崎？」

陽向「知らないの？」

直哉「…」

陽向「(「卒業」を口ずさむ) 行儀よく真面目なんてできやしなかった。夜の校舎窓ガラス壊して回った」

直哉「…？」

陽向「尾崎は昭和を生きた伝説のロック歌手。乃木坂しか聞かないからカンニングなんかするんだよ」

直哉「…いや、関係ないし」

カーナビから以下の音声。

音声「400メートル先、八王子交番前を左折
です」

直哉「…行きたいって横濱みなどみらい、
ここから二時間くらいかかるんだけど」

陽向「そう（と受け流す）」

直哉「いや、往復で四時間かかるから、帰
りが遅くなる」

陽向「高速乗ったらいいじゃん」

直哉「乗ったことない」

陽向「なんで？」

直哉「親がまだ早いって」

陽向「飯田って真面目なんだ」

直哉「…」

×

×

×

陽向、尾崎の「卒業」を口ずさんでいる。

直哉「…ガソリンなくなる」

陽向「（口ずさむ）逆らい続け、あがき続けた」

直哉「ねえ。ガソリンがもうない」

陽向「入れていいよ」

直哉「いや、俺、入れられない」

陽向「え。じゃあいつもどうしてるの？」

直哉「親とかが」

陽向「（軽蔑して）ママに入れてもらってんの？」

直哉「別に母親とは限らないし」

陽向「じゃあパパ？」

直哉「俺んち、父親いないから」

陽向「ママじゃん」

直哉「…」

○ガソリンスタンド

直哉、セルフガソリンスタンドに入る。

直哉、給油機の前で車をとめる。

直哉「…お願い」

陽向「ガソリンなんか入れたことない」

直哉「機械の説明聞けば大丈夫だと思う」

陽向「…めんどくせえな」

陽向、ドアを開けて外に出る。

陽向、乱暴にドアをしめる。

×

×

×

陽向、車内に戻ってくる。

陽向「入れた」

直哉「…ちゃんと給油タンクのフタしめてくれた？」

陽向「しめた」

直哉「カチツというまで」

陽向「(イライラして)しめたっていつてんだろ」

直哉「危ないから」

陽向「しつこい人嫌い」

直哉「…窓、拭いてほしい」

陽向「は？」

直哉「…」

陽向「全然汚れてないじゃん」

直哉「でも、いつもそうしてるから」

陽向「(舌打ち)」

×
×
×

陽向、フロントガラスを拭いている。

○車道

直哉、走っている。

陽向、タバコを取り出す。

陽向、ライターでタバコに火をつける。

直哉「え？」

陽向「(タバコをふかす)」

車内に煙が漂う。

直哉「え、何してんの？」

陽向「ん？」

直哉「いや、タバコ(とむせる)」

陽向「飯田も一本吸う？」

直哉「いや、中学生がタバコとかって」

陽向「(煙を吐き出す)」

直哉「(むせる)」

陽向「ね。知ってた？」

直哉「…？」

陽向「ルールを守るっていうのは、大人たちの都合に従うってことなんだよ？」

直哉「…」

○横浜みなとみらい・夜景の見える場所（夜）

直哉、車内で待機している。

目の前で、陽向、夜景をバックに自撮り棒を持って立っている。

陽向、笑顔のショット。

陽向、表情を変えてもう一枚。

陽向、もう一枚。

直哉「（あくびする）」

○飯田家・ガレージ（翌日・朝）

直哉、大慌てでエンジンをかける。

直哉、ガレージから飛び出す。

母佐知子（40）、走ってやってくる。

佐知子、直哉の前に立ちふさがる。

佐知子、ドアを開ける。

佐知子「：なんかタバコ臭くない？」

直哉「なんだよ。急いでるんだ」

佐知子「体操着、忘れてるよ（と体操着袋をわたす）」

直哉、体操着袋を受け取る。

直哉、飛び出す。

○通学路

直哉、飛ばしている。

○中学・校門

直哉、猛スピードで入ってくる。

○同・廊下

直哉、フルスロットルで疾走する。

曲がり角から体育教師の今井（36）が現れる。

直哉、出会い頭に今井とぶつかる。

今井、吹き飛ばす。

ドラレコの衝撃関知音が鳴る。

音声「イベント録画を開始しました」

○同・教室

直哉、やってくる。

直哉、フロントガラスが割れており、血がついている。

教室内、直哉を見て騒然とする。

○同・保健室

直哉、保健の先生にフロントガラスを手当されている。

校庭で体育祭の練習が行われている。

○同・教室

直哉、フロントガラスが直っている。

北沢、直哉の前にやってくる。

北沢、ドアのノックする。

北沢「(ちょっといいか?)」

直哉、ドアのロックを解除する。

北沢、車内に入る。

北沢、ドアを閉める。

北沢「いい知らせと悪い知らせがある」

直哉「…」

北沢「どっちから話そう」

直哉「…」

北沢「いい話はだな、リレーの選手をお前に任せることにした。嬉しいか」

直哉「…はい」

北沢「悪い知らせは、今井先生が先ほど病院で亡くなったよ」

直哉「…」

北沢「飯田。廊下は走ったらダメだろ」

直哉「…でも、スピードはそんなに出てませんでした」

北沢「今井先生のご家族の方が表沙汰にするかどうか考えているそうだ。学校としてはなるべく音便にすませるように頼んでみるけれど、問題になるかもしれない。そのつもりでいるように」

直哉「…はい」

○同・昇降口（放課後）

下校する生徒たちの姿。

直哉、徐行している。

陽向、直哉の前にやってくる。

陽向、ドアをノックする。

直哉、無視して徐行している。

陽向、直哉の前に立ちはだかる。

直哉、とまる。

直哉、窓を開ける。

直哉「（むすっと）…何の用？」

陽向「（笑顔で）入れて」

直哉「…」

陽向「お願い（と両手を合わせる）」

直哉、ドアのロックを解除する。

陽向、車内に入る。

陽向、ドアをしめる。

陽向「（冷めた声で）今井の奴、おっ死んだん

だって？」

直哉「…」

陽向「飯田、意外に役に立つじゃん」

直哉「え？」

陽向「あの体育教師嫌いだったんだよね。悪い先生じゃないんだけど。担任と違って小児性愛者じゃないし」

直哉「（驚く）え、担任って」

陽向「気づかない？ 北沢、話するときいつも女子の胸ばっかみてるよ。きっとそれが理由で教師になったんだらうね」

直哉「…」

陽向「それに比べて今井は教師としてちゃんとしてるし、いい人だし、教え方もうまい」
直哉「じゃあなんで…」

陽向「（きっぱり）顔面が無理」

直哉「…」

○斎場（数日後）

祭壇に今井の遺影が飾られている。

直哉と生徒たち、遺影を見つめている。

陽向、祭壇の前で弔辞を読んでいる。

陽向「(泣きながら)優しくて頼もしい今井先生が大好きでした」

直哉「∴」

陽向「先生が楽しみにしていた体育祭は皆で一生懸命頑張ります。天国から見守っていてください」

周りの女子たち、泣き出す。

直哉、涙の代わりにウォッシュャー液を出してフロントガラスを濡らす。

直哉、ワイパーでウォッシュャー液を拭う。

ドアが開く。

佐知子、車内に入ってくる。

佐知子「飲み物買ってきた」

佐知子、ドアをしめる。

佐知子、直哉にジュースを渡す。

直哉「∴これファンタオレンジなんだけど」

佐知子「あんたそれがいっていったでしょ。

お母さんはお水にしといた」

直哉「いや、俺ファンタグレイプっていったじゃん」

佐知子「どっちでも変わんないじゃない」

直哉「…」

直哉、渋々ジュースを飲む。

佐知子「あんた、お線香の代わりにハザード

焚いとけば」

直哉「いいよ」

佐知子「焚いときなっつて」

直哉、ハザードランプをつける。

車内にハザード音が響く。

佐知子「ハイビームも」

直哉「(気が乗らない) いいよ」

佐知子「いいからやっときなさいって」

直哉、遺影へハイビーム。

○斎場・外

生徒たちが見守る中、出棺する。

霊柩車、クラクションを鳴らす。

直哉、つられてクラクションを鳴らす。

○帰り道(夕)

直哉、走っている。

助手席に佐知子。

車内に乃木坂の曲が流れている。

直哉「(ため息)」

佐知子「なによ、ため息ついて」

直哉「∴」

佐知子「大丈夫よ。相手のご家族の方にはお母さんが頭下げちゃんと謝ったから」

直哉「∴」

佐知子「なんだろ、あれ？」

と助手席の窓の外を見る。

佐知子「橋の上にたくさん人が立ってて、なんか見てる」

直哉「どこ？」

佐知子「あー夕日だ。うわあ。きれい(と感動する)」

助手席の窓の外に夕日。

佐知子「あんたは見ちゃダメよ。よそ見しちゃ危ないから」

直哉「∴」

佐知子「すごい。太陽の周りに輪っかができてる。うわっ。すごいよ、光ってる」

直哉「…」

佐知子「こんなきれいな夕日初めて見た」

直哉、曲のボリュームをあげる。

○中学・教室（翌日・朝）

直哉の前に北沢がやってくる。

直哉、ドアのロックを解除する。

北沢、ドアを開けて車内に入る。

北沢「悪い知らせだ」

直哉「…」

北沢「今井先生のご家族が警察に被害届を出したそうだ。近く警察のひとがお前の家にくるかもしれない」

直哉「（あ然）そんな…」

北沢「…」

直哉「先生、何とかしてくれるっていったじやないですか！」

北沢「…すまん」

北沢、ドアを開けて出ていく。

直哉「(かっとなって)ロリコンが調子こくな
や！」

○同・廊下

直哉、徐行している。

男子^心が前を歩いている。

直哉、男子^心の尻をフロント部分で小突
く。

男子^心、尻餅をつく。

男子^心「(直哉へ)おい！」

○同・教室(放課後)

生徒たちが帰り支度をしている。

黒板にチョークで「明日は体育祭」「絶対

優勝！」などと書かれている。

陽向、直哉の前にやってくる。

直哉、無視してエンジンをかける。

陽向、窓を叩く。

直哉、そのまま発進する。

○同・昇降口

直哉、徐行している。

陽向、直哉の前に立ちふさがる。

直哉、ブレーキをかける。

陽向、カバンからCDを取り出して直哉に見せる。

直哉、窓を開ける。

陽向「飯田君に渡したいものがあるの。入れて」

直哉「なに？」

陽向「入れてくれたら教えてあげる」

直哉「…」

直哉、ドアのロックを解除する。

陽向、ドアを開けて車内に入る。

陽向、ドアをしめる。

陽向「(嘲笑して)逮捕されるってどんな気持ち？」

直哉「…出ていけ」

陽向「刑務所って壮絶なイジメがあるんだっ

て」

直哉「(むっとして)だいたいこうなったのは誰のせいだよ。横浜なんかいかなきゃ寝坊しなかった」

陽向「先生殺害したの、人のせいにするんだ」

直哉「…」

陽向「はい。これ」

と直哉にCDを差し出す。

直哉「…?」

陽向「尾崎のCD。飯田に貸してあげる」

直哉「いいよ。興味ないし」

陽向「自由になりたくないの?」

直哉「…自由?」

陽向「ルールという言葉でこんな狭い場所に私たちを閉じこめた大人たちを神様は決して叱ってくれない」

直哉「…え?」

陽向「飯田。一服したいからウチまで送ってって」

○飯田家・ガレージ（夕）

直哉、電話している。

車内に乃木坂の曲が流れている。

佐知子の声「もしもし。なに？」

直哉「飯まだ？」

佐知子の声「今カレー煮てるからちよつと待ってて」

直哉、電話を切る。

直哉「（ため息）」

直哉、乃木坂の曲をとめる。

直哉、乃木坂のCDを取り出し、尾崎のCDを入れる。

尾崎の「卒業」のイントロが流れる。

直哉「∴」

刑事「∴がガレージの前を通りかかる。

刑事ら、足をとめ、直哉を見る。

刑事「直哉に近づいて警察手帳を見せる。

刑事「ドアをノックする。

直哉、じっとしている。

刑事「、直哉の前で大声を出す。

刑事「（ドアを開けろ！）」

刑事「（無理やりこじ開けることになる

ぞ！）」

直哉、泣く泣くドアのロックを解除する。

刑事「、ドアを開ける。

刑事「飯田直哉だな？」

直哉「…はい」

刑事「君を過失致死罪で逮捕する」

直哉「…」

刑事「音楽をとめろ」

直哉、曲をとめる。

刑事「これから君を警察署に連行する。我々がパトカーで先導するから後についてくるように」

佐知子、カレーの入った皿を持ってやってくる。

佐知子「カレーできたわよ」

佐知子、刑事らを見る。

佐知子「（怪訝そうに）どちら様ですか？」

刑事「「こういうもんです（と警察手帳を見せる）」

刑事「息子さんを署に連行します」

佐知子、カレーの皿を落とす。

音を立てて皿が割れる。

佐知子「そんな…」

刑事「さ。ついてくるんだ」

刑事「、2、歩き出す。

佐知子「待ってください！」

刑事「、2、足をとめる。

佐知子「せめて…せめて明日まで待ってくれませんか?!」

刑事「明日、ですか？」

佐知子「息子の中学校で体育祭があるんです」

刑事「「はあ」

佐知子「最後に思い出作りをさせてやりたいんです！」

刑事「…奥さん。無理に決まってるだろ」

刑事「「まあまあ。不慮の死亡事故ですし、逃亡の恐れもない。いいでしょう。しかし、

念のため明日は我々も学校にお供させてもらいますよ」

○学校・校門（翌日・朝）

直哉、何台ものパトカーに先導されてやってくる。

○同・校庭

直哉の正面で、体操着姿の生徒たちが組み体操をやっている。

陽向、直哉の前にやってくる。

陽向、ノックする。

直哉、窓を開ける。

陽向「なんだかすごい数のパトカーだね」

直哉「…何か用？」

陽向「入っていい？」

直哉「…何で？」

陽向「暑くて倒れそう（と額を押さえる）」

直哉、渋々ドアのロックを解除する。

陽向、ドアを開けて車内に入る。

陽向、ドアをしめる。

陽向「飯田、結局オマワリのいわれるがままか？」

直哉「…」

陽向「私が貸したCD聴かなかったの？」

直哉「…いや、ちょっとだけ」

陽向「尾崎を聴けば自由が手に入るのに」

直哉「(ぼそりと)自由って、どういうこと？」

陽向「自由は自由だろ」

直哉「いや、わかんない」

陽向「一つ教えてあげる。世の中には二種類の自由がある。本当の自由と、大人たちによって仕組まれた自由」

直哉「…仕組まれた自由」

陽向「そして目の前にある自由が本当の自由かどうかを知るには、私たちが自分の胸に手を当ててよく考えなくちゃいけない」

直哉「…」

陽向「じゃ、私この後実況の係あるから」

陽向、ドアを開けて出ていく。

× × ×

陽向の声「ただいまより100メートル走最終
レースを行います。選手のみなさん、頑張っ
てください！」

直哉、スタート位置にいる。

加藤（15）、直哉の前にやってくる。

直哉、窓を開ける。

加藤「君、二年生だよね？」

直哉「あ、はい」

加藤「俺、三年の加藤。陸上部でキャプテン
やってる。よろしく」

直哉「：あ、はい」

加藤、自分のスタート位置に戻る。

北沢、ピストルを構えている。

北沢の声「位置についてヨーイ」

空砲が鳴る。

生徒ら、走り出す。

直哉、フルスロットルで疾走。

以下、ドラレコの後方映像。

加藤ら生徒、直哉に引き離されながらも懸命に走っている。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

（卒業）「♪仕組まれた自由に誰も気づかずに」
ドラレコの後方映像、おわり。

× × ×

陽向の声「二年生による騎馬戦です。選手のみなさん、頑張ってください！」

直哉のボーンネット上に男子ーが乗っている。

対戦相手の男子たち、必死の表情で直哉に立ち向かってゆく。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

（卒業）「♪仕組まれた自由に誰も気づかずに」

○同・保健室

直哉のフロントガラスにヒビが入っている。

保健の先生、手当てをしている。

正面に校庭が見える。

生徒らが綱引きをしている。

校庭に若い少年が現れる。

少年、直哉を指さす。

少年「何か叫ぶ」

○（フラッシュバック）幼稚園

入園式で、女の子「直哉を指さす。

男の子「何か叫ぶ」

×

×

×

砂場で、女の子「直哉を指さす。

女の子「何か叫ぶ」

×

×

×

教室で、男の子こ、直哉を指さす。

男の子こ「何か叫ぶ」

×

×

×

校庭で、女の子こ、直哉を指さす。

女の子こ「何か叫ぶ」

○（戻って）保健室

直哉「（呻く）うっ…」

○校庭

直哉のフロントガラスのひび、直っている。

陽向の声「最後の種目は学年対抗リレーです。選手のみなさん、頑張ってください！」

直哉、アンカーとして校庭の真ん中に待機している。

×

×

×

陽向の声「現在トップは三年△組。さあアンカーにバトンが渡った。アンカーを務めるのは陸上部キャプテン加藤くんです！」

直哉、スタート位置に着く。

加藤、走っている。

陽向の声「加藤くん。トップを独走です！」

直哉、バトンを受け取る。

直哉、走り出す。

陽向の声「加藤くんと飯田くんのアンカー勝負になりました！」

直哉、爆走する。

直哉、加藤に迫る。

加藤、チラチラと後ろを振り返りながら走っている。

直哉、加藤をあつという間に追い抜く。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

（卒業）「♪仕組まれた自由に誰も気づかずに」

以下、ドラレコの後方映像。

加藤、絶望的な表情。

加藤、立ち止まり、地面に崩れ落ちる。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

（卒業）「♪あがいた日々も終わる」

後方映像終わり。

直哉、独走している。

突然、直哉の目の前に少年が現れる。

○（フラッシュバック）保健室

少年、窓の外から直哉を指さす。

少年「（叫ぶ）ブーブーだ！」

○テロップ画面

辞書風に以下の文字が出る。

「ブーブー 自動車の幼児語」

○（戻って）校庭

直哉、急ブレーキを踏む。

少年の姿は消えている。

直哉「(声を震わせ)…車？ 俺が車だから？」

○(フラッシュバック) 中学校

北沢「リレーの選手をお前に任せることにした。嬉しいか？」

直哉「…はい」

× × ×

廊下を猛スピードで走る直哉、今井と衝突。

今井、吹き飛ぶ。

× × ×

陽向「世の中には二種類の自由がある。本当の自由と大人たちによって仕組まれた自由」

○(戻って) 校庭

直哉「(絶叫) うわあああああああああああ

めでとー！ー！ー！ー！！！！」

ドラレコの後方映像、おわり。

○道

直哉、カーオーディオをかける。

車内に尾崎の「卒業」が流れ出して…

(おわり)